

人手がかかる果樹栽培において生産振興を図るうえで、気候など当地域の環境に適応する生産ノウハウも併せて引き継いでいく必要があることから、メディアやネットツールを活用して果樹栽培の基本的知識を周知し、視聴者が果樹栽培に興味を持ち、容易に果樹作業に携われる環境を整える。また、労働力確保と併せ、研修会等により経営体に対して従来の雇用に関する意識の変革を促す。事業を通じて、労働者・経営体が相互に意見や要望を出し合うことで栽培技術の継承と併せて、地域に適合した雇用体系の形成につなげる。

事業実施主体構成員

秋田県鹿角地域振興局、鹿角市、小坂町、鹿角果樹協会、JAかつの、同りんご生産部会、同北限の桃生産部会、鹿角市農業委員会、小坂町農業委員会、秋田県農業共済組合、秋田県農地中間管理機構（計11委員）

実績値（目標値）

- ①労働力受入担い手農家数 26農家（65農家）
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度 82%
(80%以上)

令和3年度取組み内容

<h3>ア 労働力の需給状況の把握</h3>
<p>令和3年度に認定農家及び新規就農者、法人に「農業労働力に関する調査」を実施し、229経営体のうち100経営体が回答。（％は、問に対しての回答数から割出した数値とした）新たな働き手の確保についての問いでは、現状で不足し今すぐ必要が19%、労働力を確保できたら規模拡大したい19%、労働力確保望むも経営的に雇用できない18%と計約55%が労働力の確保を望んでいたが、45%は現状で十分との回答をしている。（※調査対象者が一定規模を有する認定農家であるため高い数値を占めたと分析。）また、不足している労働力としては、農作業員が最も多く93%、内容としては単純労働、専門技術（栽培）、専門技術（機械操作）であった。勤務形態としては農繁期のみ短期雇用を82.8%の経営体が望んでいる結果となった。</p>
<h3>イ 労働力の確保・育成</h3>
<p>果樹栽培サポーターの募集は、JAや農業情報誌への記事掲載、募集チラシの広報折り込み、地域FMを活用し、参加者募集を図った。R3年度果樹栽培サポーター育成講習会参加者は12名（うち男性6名、女性6名）。また、令和3年度までに育成した果樹栽培サポーターは計53名（男性24名、女性29名）で、年代は20～70代で、主に50代以上のシニア世代の参加が多かった。今年度の労働力の育成では、果樹サポーター育成講習会において、果樹栽培の基本作業の講習を11月末までに計18回開催した（2月に1回開催予定）。R3年度までの育成講習会開催数は、今後の開催予定数1回を含む合計80回となる。また、講習会テキストに沿った内容の各作業工程動画を作成しYouTubeにアップすることで副教材として活用を図っている。</p>
<h3>ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化</h3>
<p>稼働しているサポーター14名（うち専属としての稼働者が6名）、2年目の実技研修者6名と併せて、R元年から26農家へ48件の労働力を提供。他経営体より労働力提供に対して問い合わせもあるが、サポーター実数が足りていない状況にある。 令和3年度実績（【正規サポーター8名 244日稼働 総時間数：1,370時間】 【実技研修6名 218日稼働 総時間数：1,306時間】）</p>

エ 農業の「働き方改革」への取組み

農業サポーターへは余暇を利用した農作業への従事、雇用者へはフレックスタイム制の積極導入を呼びかけ、よりマッチングしやすい環境づくりを推進している。

オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

鹿角市と秋田労働局が締結した「鹿角市雇用対策協定」で掲げた取組に参画しており、情報収集につとめている。また、インターンシップや農作業体験の移住ツアーなどで、農業の魅力と農作業のやりがいなどを発信している。

本事業取組における成果項目

果樹栽培は基本技術に加え、農家個々の技量や感覚的な部分の表現の違いも多く、技術指導が難しい部分があるため、協議会の組織会員でもある県の果樹専門機関の協力を得ながら、果樹サポーター育成講習会の資料をもとに、初心者用の基本作業の動画を制作し、YouTubeにアップした。(令和元～3年度制作。今年度分の2本を今後アップ予定)。動画はテキストに準じた内容で各作業工程を区切って制作したもので、作業の拡大映像も組み合わせ、各作業を深く理解できるような教材に仕上げ、初めての作業にも心配なく取り組めるよう工夫をした。

農家の高齢化や後継者不足に加え、近年の急激な人口減少で農業に関わる人材も著しく減少し、特に人手がかかる果樹栽培農家の減少と産地維持が難しくなっていた。この対策として、果樹に特化したサポーターを育成することで、労働力不足の解消と果樹産地を下支えする人材が育成された。サポーター数はまだ不足状態にあるが、講習会参加をきっかけに、2名が新規就農に至るなどの効果もあったことから、今後もこの活動を継続しながら、1人でも多くのサポーターを育成し、果樹産地の維持拡大を目指したい。

次年度以降の取組み内容

令和4年4月に協議会会員であるJAかつのが無料職業紹介所の開設とマッチングアプリ「daywork」運用開始を予定。これまで育成した果樹栽培サポーターの活用を図るとともに、他の作目の繁忙期にはサポーターを融通しながら、支援できる作目を増やし、当地域の農業全般の底上げを図りたい。

果樹栽培に関しては、サポーターの充足数の不足のほか、果樹に関するある程度の基礎知識を要することから、今後も継続して育成講習会を開催や周知に努めるほか、農業インターンシップや農作業体験移住ツアーをさらに充実させ、旅行エージェントとコラボした農作業体験旅行パックの企画などで域外からの労働力も発掘していきたい。さらに、求人・求職のミスマッチを解消するため、受入農家に対する労務管理講習会の実施やトイレや休憩所などの環境整備支援についても検討していきたい。

また、果樹農家による防除組織も弱小化が進んでいることから、関係機関と協力しながら防除組織の再編を図るとともに、機械操作を得意とする建設業界から、機械オペレーターの派遣による新たな防除体系構築を目指していきたい。